

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 4月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473900573		
法人名	有限会社 サン・クローバー瀬戸田		
事業所名	グループホームももの樹		
所在地	広島県尾道市瀬戸田町名荷522 (電話) 0845 27 2866		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473900573-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

海に囲まれた自然豊かな小さな島にあります。周囲は民家や果樹園です。車の往来や人通りが少なくのんびりした場所に立地しています。1ユニット9名のこじんまりとした小さく家庭的な事業所です。ゆっくりのんびりしたペースで過ごしたい方に向いていると考えています。他の事業所と比べ入居者を看取った経験が多い事業所です。主治医や家族と連携しながら今までの看取りの経験を活かして入居者に寄り添った終末期介護支援を行い、入居者と家族が良い形で最期を迎えられるように努めています。職員の大きな支えがありコロナ禍で難しい状況でしたが、数名の方の看取りをすることができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念を念頭に年間目標を策定し、目標に向かって日々取り組む支援が理念の実践、実現に繋がる行動となっている。毎月「ももの樹だより」という広報を家族用と地域用に2種類作成し、家族用では利用者の写真を載せ日々の生活の情景が分かりやすく伝わるものであり、地域用では介護の情報やワンポイントアドバイスを載せ役立ててもらえるようにしている。看取りも医師の指示のもと、本人や家族の意向に随時耳を傾け、家族も一緒に介護を行う等、共に支援し最後まで見ていくことを実践しており、医療や看護のサポートを得ながら支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念を掲げ、理念に沿った行動ができるように、理念に反した行動をしないように心がけ努めるようにしている。入居者の笑顔や喜びが多い生活を目指している。	理念を施設内に複数掲示し、職員が目が届きやすいよう、周知している。年間目標を理念から波及する内容となるよう策定し、個々の気持ちに寄り添いできることを考え喜びに繋げる支援に努めている。目標の実践を通し日々の支援や行動が理念の体現となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一員として地域住民と変わらない役割を担っている。近隣の方から教わったり、分からないことが有れば直ぐに相談できる関係性を築いている。ゴミ収集所の清掃や区費や組費の徴収、ももの樹便りの回覧で回してもらっている。	町内会に加入し、地域の様々な行事や活動に積極的に参加し、関係性を深めている。地域の一員として、ゴミ収集所の清掃などの活動をはじめ、広報「ももの樹だより」にて事業所の周知や介護の情報、ワンポイントアドバイスを載せ役立ててもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎月の広報「ももの樹便り」で介護に関わる情報を載せている。地域に特有の情報を伝えて活用してもらっているようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、会議を中止している。自治体へは現在のサービス状況を用紙にまとめて報告している。	コロナ禍であり、資料を送付し書面にて活動の報告を行っている。ヒヤリハット報告も状況から対応までの記載があり、日々の事業所の取組みや対応を伝える内容としている。消防の話に地域の方から有事の際にサイレンが鳴るスピーカーの提案の事例があった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	分からない事や相談したい事柄が有れば積極的に主に電話で相談するようにしている。お互いに持つてくる情報を伝えて互いの状況を理解しようとしていると感じている。お互いに協力的である。	運営推進会議での意見交換をはじめ、日常からよく質問をしており、情報を相互に交換している。地域包括支援センターとは見守り訓練を事業所や地域と合同で実施するなど、日々の島内での活動に身近な存在にある良い協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所内研修で毎年学ぶ機会がある。繰り返し学ぶことで正しい行いを学び身に付くようにしている。</p>	<p>2か月に1回、身体拘束対策委員会を開き、利用者一人ひとりの状態に気を付け検討している。制限はしないことを原則に、利用者個々の状態に理解を深め対策に尽力している。本人の意思や生活を尊重することを根底に身体拘束をしないケアを徹底し取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所内研修で毎年学ぶ機会を設けている。毎年繰り返し学ぶことで虐待等に関する行動に対し敏感に感じられるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所内研修で毎年学ぶようにしている。必要時に利用できるように制度や事業について学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族に疑問や不安な点、理解が難しい点など説明途中や終了後に積極的にこちらから聞くようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者との良い関係づくりに気を配っている。声掛けや対応する時の行動等。入居者との良い関係、話しやすい関係づくりから本人が希望を表出しやすく拾いやすい状態になるようにしている。</p>	<p>利用者には日々の関わりから思いなど汲み取り確認し、雛祭りの行事食に反映させたりと実現に努めている。家族には連絡時を活用し意見を確認しており、会いたい要望に感染対策を万全に面会をしたことや、リモート面会も行っている。コロナ禍以前は家族会も行っていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>業務の合間や申し送りの時に意見を求めたり、意見が出たりしている。職員の意見やアドバイス等を参考に業務や運営に関する判断の材料としている。職員の意見を必要に応じて反映するように心がけている。</p>	<p>年間2～3回の職員会議で意見交換を行うことや、申し送り時や普段のコミュニケーションから共有していき、出た意見は直ぐに話し合い、すぐに解決に繋げることを念頭に取り組んでいる。食事のレパートリーを増やしたい意向で調味料を増やした事例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の持つ力や個性や特徴が分かるようにコミュニケーションに気を配っている。入居者への対応様子やその他の仕事の様子を見させてもらいどういった人なのかという判断材料にしている。職員がより働きやすい環境について模索している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>以前より少ない人数で入居者への支援を行っている。外部の研修を受けてもらう機会が設けづらい状況である。日々働く中での情報交換や意見交換等しながら分からないことや疑問に思うことを調べながら解決しながら成長している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>コロナ感染症が広がる前は小規模事業所間での交流や学ぶ機会があったが、現在は難しい状況になっている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>契約前や契約、入所に至るまでに入手した情報を活用するようにしている。本人が急な環境の変化に伴い心理的な変化が生まれることを考慮しながら、本人の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを行うようにしている。それらが良い関係づくりにつながると考えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前の連絡や契約等を通して家族の話を聴き意向や不安等について、くみ取るように努めている。家族の不安が出来る限り少ない状態で入ってもらえるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族の状況や情報を考慮して、視点を本人を含めた家族全体、必要ならばそれより広く持って、サービスの種類を判断して、伝えるようにしている。他の介護支援が良いと判断すれば、その地域サービスについて説明する、案内等するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は支援するという立場であるが、入居者と職員が協力し合いながら共に過ごしている感覚をもっている。入居者ができることは力を貸してもらい互いに「ありがとうございます」「ありがとう」を言いながら良い関係づくりを行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族が本人と関わる機会や支援に携われる機会を設けるように考えている。家族の状況を踏まえつつどういった支援が可能なのかを考えるようにしている。特に看取りになれば家族の協力を求め、家族が本人との繋がりを確認できる場と考えて面会や見守り、その他支援をお願いしている。こちらの過度な支援についても気をつけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍のため面会を原則禁止としている。家族でさえ面会が難しい状況となっている。希望が少ないがオンラインでの面会する環境や窓越しで面会を行う等難しい状況の中工夫している。</p>	<p>利用開始前の生活背景を確認し関係性の把握に努め、窓越しの面会を行う等できる限り関係を繋げる取り組みを模索している。コロナ禍以前では生まれ育った場所の話から故郷に連れていき、それがきっかけとなり家族と一緒に看取りを行う事に繋がった事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>集団生活の中で入居者同士がどういった関係性なのかが大変重要だと感じ理解している。情報共有しながら入居者が主に過ごす場所や入居者の組み合わせ等を考えている。柔軟に対応して不和なく過ごしてもらうように気を配っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>サービスが終了した後も家族と連絡する機会が有る（支払いのことやハウスクリーニング、お礼の電話等）。その時に本人や家族の状況等をうかがうようにしている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃より、利用者の方と接して行く中で思いや意向を把握するように努めている。また、意思の表出が困難な方は、今までの生活歴を参考にしたり、ご家族の意向を聴きながら利用者本位の支援を行っている。</p>	<p>利用者には日々の関わりにおいて一緒に過ごしている感覚や距離感を大事に意識し、思いや意向を汲み取り確認している。利用者それぞれに合わせ聴き方を変える等、本人の思いを掘り下げ確認することで自己表出に繋げ支援に反映させている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時、前ケアマネジャーより、基本情報、主治医からは診療情報提供表を頂いている。ご家族からは、利用者生活歴、認知症発症時の情報を頂いている。また、ご本人と面接を行い、状況によってはカンファレンスも行っている。これらの情報を基に職員間で共有しながら把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>日頃からの関りの中でその方々の状態の把握に努めている。また、24時間の記録、連絡帳、日2回の申し送りでも把握しどの様な支援がその方にとって施設で生きがいを持って生活できるか検討しながら支援に繋げていけるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアマネジャーがモニタリング、アセスメントを行う時に本人、ご家族、職員の意見、意向を聞くようにしている。それらの意見、意向を反映させながら、介護計画書原案を作成しカンファレンスを行い介護計画書を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向をもとに、計画作成者が職員から共有する意見をまとめ、3ヶ月毎のモニタリングやアセスメントから振り返りをもとに作成している。それぞれの生活歴や認知症の発症経過など詳しく紐解き、本人を詳細に捉え、個人を表現できることを意識している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録は24時間で記録している。また、日誌ではその方の様子が直ぐに把握出来る書式にしている。大事な事は連絡帳に記入し漏れないように状況を共有しながら実践し介護計画の見直し、モニタリングに活かすようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>現在、ご家族が遠方の利用者が多く、また、コロナウイルス感染症防止対策もありご家族のご協力は難しい状況ではありますが、利用者、ご家族が寂しい思いをされないように、リモートでの面会や電話、また、毎月、ももの樹便り、施設での様子の写真を送付し柔軟な支援が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の人的資源や環境的資源等活かして入居者の生活を豊かにするように努めていたが、コロナ感染症により難しい状況となった。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の医師や看護師が定期的に往診。往診以外では入居者のことで気になったことを電話で相談して主治医や看護師の意見や判断、指示を仰ぐようにしている。適切な医療が受けられるように、受診になれば求められる情報をあらかじめまとめて診察時にきちんと伝えられるようにしている。</p>	<p>以前からのかかりつけ医の受診も可能である。利用者の多くが島民で、協力医が元々の主治医であることで長年の付き合いの中での医療を受けることができる。毎月定期や必要に応じて往診があり、受診の際は記録やバイタル等情報を伝え適切な医療が受けられる支援に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>入居者の状態や以前との違い等気づいた点を看護師に報告。適切な判断につながるように努めている。医療で心配なことや疑問、気になることを相談してアドバイスや意見をもらい入居者の安心や健康保持への支援につなげている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際はこちらでの介護状況や入院に必要な情報等をまとめて伝えている。退院時は看護サマリーや電話連絡等で情報を得ている。分からないことがあれば積極的に医療機関に相談して不安なく支援できるように努めている。こちら側が情報を求められた際は分かりやすい説明を心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居前に重度化や看取りについて説明を行っている。実際に入居者が重度化や看取りになった際は再度家族に説明を行い家族の希望や看取りに関する不安等を聞くようにしている。ご家族に出来る可能なことは協力してもらい主治医と家族、職員がチームとなって看取りができる体制が作れるように努めている。</p>	<p>利用開始時に重度化した場合、看取りの指針の説明を行い、終末期の際は家族の意向を随時確認し、医師や看護師の意見をもとに実践する内容を別紙作成し状態の変化に合わせ寄り添い支援を行っている。家族も宿泊ができ寄り添うよう努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時対応の研修を年の研修計画に入れ学ぶ機会を設けている。研修時以外でも入居者の状態に応じた予想される緊急時に関する話を職員同士で話をしてどう対応するか等、分からないことをクリアにして職員の不安が無いような体制作りに努めている。主治医や消防隊や救急隊の方に相談している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎年行っている消防訓練で身に付くようにしている。分からないことが有れば消防署や救急隊の方に相談するなど繋がりを大切にしながら体制を整えている。</p>	<p>年2回防災避難訓練を実施し、その内1回は夜間想定にて訓練を行っている。地震の震度7を想定して天窓など設備の安全を確認しており、有事の際は法人事業所間の相互の協力が行え、消防署との連携や以前に地域の方にも訓練に参加してもらう等協力体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎年、事業所内研修で学ぶようにしている。入居者を尊重する気持ちを忘れずに働くことを学んでいる。難しい場面等もあるが、個々の性格を踏まえ、場面に合った声かけを行えるように取り組んでいる。声かけや介護での失敗は情報を共有して次へ繋げられるようにしている。	個人の尊重を遵守し実践に努めている。個々の特性を踏まえそれぞれに合った声掛けやコミュニケーションの取り方を意識している。自身で選択できるよう選択肢を簡素化し分かりやすくすることで本人の思いや意向を発端とし楽しく穏やかな生活となるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が選択しやすいように声かけを行うようにしている。選択肢を減らしたり、する・しないの二択等したり、本人の希望が分かるように個々に合わせて支援している。日常のコミュニケーションの中で本人の意向や困っていること等をくみ取り職員間で情報共有されるように務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望や体の負担等総合的に考えながら一日を捉えている。情報共有と一緒に暮らすことで個々のペースを把握するようにしている。希望と体の負担等のバランスを上手くとり本人が心地よく暮らせるように気を配り支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望を家族に伝えて用意してもらったり、事業所へ送ってもらう等しながら家族と共に支援をしている。希望を表出できない方は職員が本人に寄り添ってくみ取り家族に相談をするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでもらえるように、食べやすく飲み込みやすい個々に合った食事形態や水分のトロミの使用等を行っている。食べたいもの聞いて献立に活かすこともある。食事の準備や食事後のお皿拭き、トレー拭き等ができる方をお願いして一緒になって食事の時間を作っている。現在はコロナ禍のため同じ空間であるが入居者と職員が距離をとって食事している。	3食手作りにて提供している。利用者には調理の皮むきや盛り付け等手伝ってもらっている。行事食にも力を入れ、雛祭りには桜餅を作っている。コロナ禍以前は近所の中華料理屋や喫茶店などに外食もしていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分量が過多過小が無いように日誌や個別記録に記入している。血液検査での主治医の意見を重要視しながら食事や水分量の支援を行っている。食べやすいように入居者の状態に合った食器やスプーンを使用するようにしている。水分が少ない方には声かけの工夫をして飲んでもらっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>本人ができることはやってもらえるように支援している。見守りや声かけで可能な方やほほ介助をしないといけない方等。それぞれペースも違うので個々に合わせた支援を行うようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>気持ちよく過ごしてもらえるように個々に合ったパットやオムツ等がどいったものか考え使用している。排泄に関する事で気づいたこともその場や申し送り等で話をして情報共有するようにしている。夜間はオムツ対応だが日中は自身の力を活かし、トイレ介助で排泄を行ったりする方もいる。</p>	<p>個別記録や排泄チェック表にて個人の排泄のパターンや状態を把握し、気づきを随時職員間で情報共有している。パットの形状を徐々に薄いものへ試行し定着した事例や、ベッドの位置をトイレに行きやすくするなど安全に自身の力で排泄を行えるよう工夫をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個別記録や排泄チェック表で排便の頻度や便の形態等が分かるようになっている。申し送りや職員同士のコミュニケーションで情報を共有している。排便や便秘それらに関する事で疑問や不安がある場合は主治医に相談して本人が安楽な状態で過ごせるように努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の身体の状態に合わせた柔軟で安全な心地よい支援をするようにしている。入居者の可能な動きやペースに合わせてながら必要な支援を行っている。入浴後は保湿剤を塗布して乾燥を防ぐ等して気持ちの良い入浴を心がけている。その他 湯の温度、湯量調節、室温、身体をこする加減等々に気を配っている。</p>	<p>週に2～3回の入浴を基本とし午後から行っている。本人の意向に寄り添い、入りたくない時も無理強いせず、時間や対応する職員を変えることや温度調節など柔軟に行っている。入浴後の保湿や地元の特産品であるレモンなど浮かべ柑橘系の香りが楽しめる等、趣向を凝らした入浴の支援となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>職員と一緒に暮らす中で、入居 者の変化や気づき、疑問等を情 報共有しながら個々に合った休 憩する機会を設けるようにして いる。睡眠の情報を含めた夜間 全体の情報も同じく共有しなが ら変えるべき点を探るようにし ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>服薬の内容について薬ファイルや 個々の薬箱内の薬袋で確認でき るようになっている。処方の変 更は受診・往診等を記載する情 報ファイルや申し送り、連絡帳 等を通して把握できるようにし ている。処方後の変化や気づき を個別記録や申し送りで伝え必 要に応じて主治医に連絡、相談 をするようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品 、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている。</p>	<p>本人が現在どのようなことが 出来るのか現在の認知能力や動 作能力等踏まえて、アセスメン トや日常のコミュニケーション 、家族からの追加の情報等から 個々にできることを考えて支 援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍ということもあり外 出の機会はほぼ無い状況とな った。</p>	<p>コロナ禍で外出を自粛している が、以前では日常的な散歩をは じめ、季節ごとの行事で外出を 計画し、海の見える傍での食事 や、秋祭りなどの地域行事や 神楽を見に行ったりと様々に 外出を行っていた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。</p>	<p>現在はお金の所持や自己管理 を行わないように協力してもら っている。必要時は事業所が立 て替えて後日家族が事業所へ 支払うようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	事業所の電話で話をする方や自身の携帯電話で話をする方がいる。着信音が聞き取りにくかったり、電話の操作が分からないことがあるのでタイミングよく職員が仲介するようにしている。時折、家族から手紙が届き喜ばれる姿を目にする。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の過ごしている様子に気を配り快・不快を判断して柔軟に対応している。意思疎通が可能な方は相談しながら、できない方は表情や体温、発汗等の情報を観ながら本人が過ごしやすい環境を整えている。制作が可能な方と一緒に季節の壁飾りを作っている。それを壁に掲示することで少しでも季節感が感じられるようにしている。	建物は天井も高く開放的であり、天窓から日差しが優しく注いで室内は明るい空間である。利用者の季節の作品も掲示され季節感が感じられ、ウッドデッキで日向ぼっこやおやつを食べたりと生活の中でくつろぎを感じながら過ごすことができる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各々の日々の過ごし方を観ながら好みの場所や入居者同士の相性、一緒に過ごすタイミング等の情報を得ている。過ごす場所が不快なところにならないように気をつけている。日によって変わる方もいるので職員同士が話をして柔軟に対応して過ごしやすい場所の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	こちらで備え付けの家具があるが、本人の馴染みのものがあれば自由に持ってきてもらって良いことを伝え説明している。現在は本人の作品や家族からもらったものを飾っている方等がいる。入居者が安全に動けることを重要視しながら環境を整えている。	ベッド、洋服ダンス、チェストが備え付けである。本人の馴染みの物を持参していただけるように積極的に声を掛け、話を聞きながら本人が和める環境を整えている。家族の写真や自身で仕上げた塗り絵を飾るなどそれぞれの居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の各々がどこまで出来て分かるのか職員間で情報を共有して、個々に合った生活空間や介護を受けて過ごしてもらえるように努めている。共有した情報より、支援するときの声かけや介助支援の度合等に活かし、本人ができることは行ってもらうようにしている。居室においてはダンスやポータブルトイレ、ベット等を本人に動作に合った配置を心掛けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームももの樹

作成日 2022年 5月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	21	コロナ禍になり人との間隔が変わり始めた。感染対策を行う中、入居者同士や入居者とスタッフの関り方も変化した。人との関り方のルール(約束事)で曖昧な部分がある。それが入居者にマイナスに影響していると感じている。	コロナ禍になって3年目、入居者同士や入居者とスタッフの関わり方を含めた人と人の関り方を見直し、曖昧な部分をできる限りはっきりとさせてルール化する。支援が行いやすい環境にして、入居者の生活の質を上げる。	コロナ禍(感染対策等)で人と人との関わりで曖昧になっていることや気になっていることを上げる。現在のホーム内の状況に合わせて、人と人が関わる時や行動についてルールを作成する。	3か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。